

## 令和4年度（2022年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票（総括表）

団 体 名	社会福祉法人恩賜財団済生会滋賀県病院
担 当 部 署	経営企画課
担 当 者	水島貴澄
電 話	077-552-1221
E-mail	<a href="mailto:mizushima-t@saiseikai-shiga.jp">mizushima-t@saiseikai-shiga.jp</a>

優先順位	事業区分	事業名	金額（千円）
例)	I	〇〇事業	△△千円
1	I	手術室整備事業（増室）	210,210千円
2	I	手術室整備事業（陽陰圧切替改修工事）	8,619千円
3	I	医療・介護連携システム構築	24,000千円
4	I	新棟整備事業	7,149,984千円
5			
6			
7			
8			
9			
10			
合計			7,392,813

令和4年度（2022年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票

事業の名称		手術室整備事業（増室）
事業の実施主体		済生会滋賀県病院
対象圏域		湖南医療圏
事業期間		令和4年度内
事業の分類	(大)	I-① 病床の機能分化・連携のために必要な事業
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備等
	(小)	5 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備
事業の概要（積算）		《事業概要》 湖南医療圏で増加が見込まれている医療需要へ対応するため手術室を増室する。
		《積算》  ○増室数 1室  施設改修費 210,210千円
現状と課題、事業の目的		医療需要の増加に伴い手術需要も増加する。手術需要の増加により、定期手術及び救急患者に対する緊急・臨時手術の待機期間の長期化が危惧される。手術室を増室することで、適切な時期に円滑に手術を実施できる環境を構築する。
地域医療構想との関係性		湖南医療圏における医療需要（2015年対2035年）については、高度急性期機能は1.31倍、急性期医療については1.39倍へ増加し、その後は横ばいで推移することが見込まれている。「①県民の命を守る高度・専門医療の維持・発展」を実現するために必要な整備である。
事業の成果・効果		手術室を増室することで、がん、大腿骨頸部骨折等の手術が必要となる疾患はもちろんのこと、三次救急、ドクターヘリ基地病院として県内全域の救急疾患に対して適切に手術を実施することが可能になる。
達成目標	目標とする事項	手術室数
	現在値	10室
	目標数値	11室

令和4年度（2022年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票

事業の名称		手術室整備事業（陽陰圧切替改修工事）
事業の実施主体		済生会滋賀県病院
対象圏域		湖南医療圏
事業期間		令和4年度内
事業の分類	(大)	I-① 病床の機能分化・連携のために必要な事業
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備等
	(小)	5 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備
事業の概要（積算）		<p>《事業概要》 手術室は通常陽圧管理で管理を行っている。コロナ等感染患者に対する手術を実施する際には陰圧への切替えが可能になるよう改修を実施する。</p> <hr/> <p>《積算》</p> <p>○手術室陽陰圧切替改修工事（1室） 施設改修費 8,619千円</p>
現状と課題、事業の目的		手術室については感染管理のため陽圧管理により清浄度を維持している。コロナ等感染患者に対して手術を実施する場合、陽圧管理であると院内感染のリスクが高まる。陰圧管理を可能にすることで、院内感染のリスクを低減させる。
地域医療構想との関係性		第8次医療計画において「新興感染症等の感染拡大時における体制確保」が6事業目に追加される。手術室の陰圧室整備は「平時からの取り組みに必要な観点」及び「感染拡大時の取り組みに必要な観点」への充実に寄与する。
事業の成果・効果		コロナ感染患者（特に妊婦に対する帝王切開）への手術について、感染リスクを低減させることで受入体制の充実が期待できる。
達成目標	目標とする事項	陰圧対応手術室数
	現在値	0室
	目標数値	1室

令和4年度（2022年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票

事業の名称		医療・介護連携システム構築
事業の実施主体		済生会滋賀県病院
対象圏域		湖南医療圏
事業期間		令和4年4月1日～令和9年3月31日
事業の分類	(大)	I-① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備 等
	(小)	1 ICTを活用した地域医療ネットワーク基盤の整備
事業の概要（積算）		<p>《事業概要》                  地域包括ケアの実現には、医療と介護の垣根を越えた連携が必要。                  ICTを活用し医療スタッフと介護スタッフが患者・利用者の情報をリアルタイムに情報共有なシステム構築を行う。</p> <hr/> <p>《積算》                  ○済生会滋賀県支部（滋賀県病院、守山市民病院、淡海荘、訪問看護、ケアポート栗東）にて5年利用を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療介護連携システム                      ソフトウェア・ライセンス料 9,000千円</li> <li>・電子カルテ、介護システム                      各システム連携改修費用 15,000千円</li> <li style="text-align: right;">計 24,000千円</li> </ul>
現状と課題、事業の目的		<p>現状、各施設間の情報共有についてはFAX・電話、必要な場合は集合形式のカンファレンスを実施しており、職員の業務負荷およびリアルタイムの情報共有ができていない。                  医療・介護連携システムの調達および既存の電子カルテ・介護システムを改修し連携することで上記課題が改善できる。</p>
地域医療構想との関係性		滋賀県地域医療構想に掲げている、「切れ目のない連携システムの構築」および「医療と介護が一体となって生活を指させる地域づくり」の実現に寄与できる。
事業の成果・効果		医療と介護・福祉が一体となった地域住民への質の高いサービスの提供。各施設の医療・介護従事者の作業軽減に繋がり専門業務に労力を費やすことができる。
達成目標	目標とする事項	医療・介護連携システムの稼動（電子カルテ、介護システム連携を含む）
	現在値	—
	目標数値	—

令和4年度（2022年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票

事業の名称		新棟整備事業
事業の実施主体		済生会滋賀県病院
対象圏域		湖南医療圏
事業期間		2023年度から2025年度
事業の分類	(大)	I-① 病床の機能分化・連携のために必要な事業
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備等
	(小)	5 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備
事業の概要（積算）		<p>《事業概要》</p> <p>湖南医療圏で増加が見込まれている医療需要へ対応するため、内視鏡センター及び健診センターの移設、MRI造設、IVR-CT新設、災害発生時のトリアージスペースの確保を行う。また、新棟整備に伴い管理棟（院内保育所、更衣室、SPD）の建設、旧病院の解体を実施する。</p> <hr/> <p>《積算》</p> <p>○新棟建設 管理棟建設 旧病院解体</p> <hr/> <p>合計 7,149,984千円</p>
現状と課題、事業の目的		平成16年に現在の病院を建設し15年以上経過している。これまでの医療需要の増加には対応できていたが、今後の需要増加に対応するには設備が不足することになる。新棟を整備することで、今後の医療需要に適切に対応することが可能になる。
地域医療構想との関係性		湖南医療圏における医療需要（2015年対2035年）については、高度急性期機能は1.31倍、急性期医療については1.39倍へ増加し、その後は横ばいで推移することが見込まれている。「①県民の命を守る高度・専門医療の維持・発展」を実現するために必要な整備である。
事業の成果・効果		新棟の整備により急性期医療を中心として適切な医療提供体制を構築することができる。また、現在の病院においては空きスペースが生じるため、外来化学療法室の拡充などにより「医療資源を重点的に活用する外来」の充実が期待できる。
達成目標	目標とする事項	新棟の整備
	現在値	未整備
	目標数値	整備